

月十九日を以て一應憲法大綱の討議を終はり該議定事項は目下兩院より組織せる憲法起草委員會に交附して討究中なるが左に該憲法大綱を摘錄せん(二十八號雜報参照)

一、領土に對しては概括主義を採用す

二、統治權は國家に屬す

三、蒙古西藏の治理は從來の習慣を基とし特別法律を以て規定する事を得

四、行政部の組織は内閣制を採用す

五、大總統は兩院討議議案に對しては復議權及中止權あり

六、大總統は緊急命令の頒布權を有す

七、大總統は國務員及外國駐在の外交代表者の任命權を有し必ずしも議會の同意を経るを要せず

八、大總統は議會停止權を有す但し二回を超ゆるを得ず(每回十五日停止時日)を超ゆる事を得ず

九、大總統は參議院の同意を得衆議院の解散權を有す

十、大總統の任期は七年とし一回連任する事を得

十一、大總統は國會より選出す

十二、大總統は大逆不道以外の行為に對して責任を負はす

十三、行政最高權は大總統に委任し内閣總理各部總長を補助す、内閣總理及各部總長は皆々國務員と爲す

十四、國務員は衆議院に對しては政治上の責任を負ふ

十五、國會の組織は兩院制を採用す

十六、參議院の選舉には各省々議會を加入す

十七、兩院議員は在職中國務員を兼任するを得す

十九、衆議院は國務員彈劾權あり、但し議員の四分の三以上出席し三分の二以上の同意を得るを要す

二十、國務員が衆議院に於て彈劾せられたる時は參議院にて特別法庭を開き之を裁判す

二十一、豫算案は先づ衆議院に提出すべし

二十二、兩院議員の俸給は日給主義を採用す

二十三、行政訴訟は平斷院を設けて之を判斷す

二十四、義務教育は憲法に於て之を規定す

是れ本より憲法大綱中主なる者を集録せる者に於て憲法の全部に非らず雖も該憲法起草委員會は各省都督國務院より推選して組織せる者なるが、大總統は厚く而して參議院に對し殆んど何等の規定なきは其間著しく徑庭あるを見るは御用委員會の決議としては免れ難き所ならんも我等は國民黨諸子が自黨憲法草案發表其の憲法の精神とに對して該黨今日の情勢に思を致せば一鞠同情の涙を禁じ取らざるなり

●南京遂に陥る

八月十四日より連日北軍の攻撃を受け奮戰激闘より三週間を支へたる南京は九月一日遂に陥落したり之より先き張勳は揚州の兵を合して紫金山の取り十九日天保城を占領し太平朝陽門を取り當りしが二十七日頃より馮軍下關の下流を渡りて神策太平兩門を攻め張勳は更に朝陽門に進み二十三日鎮江より上陸せる雷震春の兵は東方より洪武通濟門を攻め上流大勝關に上陸せる馮軍の一部と合して雨花臺より南門を攻めんとす、之に於て包圍の陣形全くなり南軍の運命は日に戚まれば此頃城内には妥協を懇願するものありし雖も遂に成立に至らず南軍總指揮官金格萬圓の提供を爲し南軍の撤退を迫りて撤兵を拒むるもの、如く二十九日王憲章は第一師團を率へて南門外に馮軍の混成旅團と戦ひ大に之を敗りて遠く擊退し三十日河海鳴は張勳等と第八師團の兵を以て暮府山回復の運動を起し三十一日大に太平朝陽門の兵力を減殺するの結果を來せし、明くは九月一日夜來の戦間は午前四時半頃及び大に猛烈を加へ南軍第八師第二十九團の一部隊は天保山上及山下の敵と戦ひ朝陽門を守る第一師及柏文蔚の殘し置きたる安徽兵は張勳の兵と對戦し城南を守る王憲章の第一師は馮國璋の兵並に雷震春と砲火を交へ獅子山に據れる南軍は巨砲を放ちて暮府山砲台及び海軍と戦ひが砲聲天に轟き熱火地に迸りて九十里の巨城爲めに崩れんとす午前七時半北軍の砲火は北軍砲火の上を西に走り次て又朝陽門の守備兵は守戰に堪へず遂に赤旗を掲げしかば南軍四散入走して又收拾する能はず司令官河海鳴は何處ともなく逃走し北軍は先づ朝陽門より城内に闖入り太平、神策、洪武通濟の諸門次て陥り北軍は司令部を北極閣に置き南軍殘兵の掃討に移り多少の市街戦を交へたり獅子山砲台は馮軍の攻撃によりて午後六時頃遂に北軍の手に歸し南軍は南門より走て雨花臺に據り終夜激闘を繼續せしが二日午前八時各軍の攻撃せる處となり遠く南方に潰散し南京の包圍戰遂に全く終りを告げたり

●南京の陥落後

●奪掠と強姦と虐殺と
●同胞敵名標榜を蒙る

南京陥れば張勳は奪掠三日以て三軍の將士を稱はんとす、是れ早く十數日前より傳はり南軍をして悲憤慷慨せしめし兩軍無意義の對抗を徒らに延引せしめたりしが九月一日、公正されたる奪掠三日の一言は不幸にして篤を爲し九十里の城垣は故なくして阿鼻叫喚の巷となり放火、奪掠姦淫、虐殺等、有らゆる罪惡は凡ての北軍に依りて犯されたり、各軍の司令官は約束の如く三日の間入城を避け遠く幸をして在りて之を傍觀し野蠻の如き士卒をして其欲する所に就かしたるなり、嗚呼官軍既に良民を虐ぐ王道何を以てか立たん、長江濶使今何處に在る、鎮守使の使命を如何、宣撫使の旗幟を如何、

●同胞の遭難

初め河海鳴の南京に據りて事を擧ぐるや硬軟兩派の暗闘日に激ししより在留同胞は皆避難の準備を爲し攻圍戰の開始と同時に領事館に避難する商民七十餘名婦女子は遠く上海又は日本に送還し戰爭の經過を窺ひたり九月一日陥落の報傳はり掠奪を防がが爲めに歸店せるものあり此時北兵已に大街を荒らし發砲しつて手當り次第に擄掠し眼中内外の區別なきより同胞敵名は陰かに危険を感じ國旗を押立て、領事館に引揚げんとすれば奪掠の諸兵當路に擁して誰何し銃を擬して所持品を奪はんとするも刺す所の一物なきを奈何せん維れ命窮れり今は唯我國旗の威光に倚り我は是れ日本人なりとの最後の頼みあるのみ、然るに野蠻の如き北兵は發砲せり難貨商後藤勇次郎、村尾某の兩人は即死を遂げ館川勝次郎は重傷を負ふて逃れ後死せり其後尚一名統殺の慘を蒙り行衛不明のもの數人を出せり同胞の生命已に彼等の重す所となり財貨の奪掠の如きは言ふ迄もなきなり、太田、早川兩醫院の如き赤十字旗と國旗を掲げるにも拘らず掠奪隊の

東京海上保險會社
明治火災保險會社
日本火災保險會社
共同火災保險會社
東京火災保險會社

代理店 上海四川路
三井洋行
文路第壹號
申込所 山口商店
(電話一八一七)
(電話三四五九)

日本上海火災保險會社
資本金 三百萬圓
諸積立金 貳百參拾萬圓
店支海上
號九第A路口漢界租英海上
(番六五三一話電)

共和國の資格なし今の政府の行動が一切法律に出づるや我敢て知らず最近の例を以て云へば參事院議員逮捕の如き實に人に口實を興ふるものなり參事院は此案に對し均しく逮捕の證なしとせば政府の議會を監視し立法機關を無視するの議は到底免るべからざるなり法に違はざらんぞ欲せば必ず先づ自ら法に違はるべし人の非法如何を論せず先づ自ら法に處することを知らず云ふ所以なり

用は日に深かるべし此れ吾人の所謂法律によるの行動を取れ云ふ所以なり

亂事ありて以來一般が亂黨に切齒するも同時今日政府に向つて苟くも省みなきにあらずる今日政府にして苟くも省みなきにあらずる今日政府の行動を取らざれば亂黨を切齒するの心は政府の頭上に移るべし豈に心せざるべけんや

各地通信

●伊香保より 藤瀬政二郎

二十一日東京發、伊香保に參り、毎日山を登り降り致居候、本日榛名神社に參詣し、貴兄初め在源諸友の健全さ幸福を祈り置き申候、東京よりアルウイッ老翁等と同車し、一夕御馳走に相成候、令嬢等と伊香保の芝居見物を致候、町田朝日艦長に偶然出會ひ候、猶ほ滞在中

(八月廿五日)

禹域鴻爪

●陝西省永壽縣にて 吉村生

近づきつて有り候、從つて衙門不開化の地の待遇異常に厚く只無智の支那人が珍らしかりて集るには一縣口致し居り候、此の永壽縣は山間の一閉城 沿途は尚ほ殘暑堪わ難きに此處は涼しき言外に候、今日は則天武后の墓を弔申候、縣城附近には驚くべき斷崖有之、斷崖より西方一帶には小丘起伏し斐々たる青草繁り好個の牧場に候

此の邊一帶には六居の住民殊に多く候

●斷崖路、古鬆滑りたり稻妻す

笠井君の行半にして逝きたるを聞きて

盆の月飛信に語る城も寂び

●西安の古都より 保木本生

古都に着き申候而して當地の警戒の嚴なるには驚き多し、軍隊すら城外へ出て發せり同地軍隊反亂の爲めと云へば四川の備の爲めと云ふ西安の四圍は皆な土匪と見るべし、軍要などの發換の數日出來強固通行せし、軍要などいざなげかゝ出來ず、錢莊銀號などの門前は取付にて宛然修繕場に御座候、財政は阿片の禁止以來輸入不足となり窮乏の態に候北平政府の補助なくんば到底駄目、以て當省の旗色も見るべくぞ存候、上海方面との通信の如きは殊に嚴重に就きトテモ手紙など六つかし候(八月廿七日)

河南省駐馬店にて 堀江生

暑苦しい陸行にて二回もアセモが出來三回も體の皮を剥ぎ待た焦れたる民船旅行と相成り候、民船に乗りて見ればなかと、七名の同勢重りて寝ね暑苦しい事限りなく民船旅行も案外樂なものには御座なり候、南北交戦は盛州の到るに時衙門にて承知仕り候、知事の談に據れば交戦地帯は生等の通過すべき地と前にて河南に比つて對し杞憂を抱き申候も運交戦地帯を通過するに煩る困難仕り候就中八里渚の野宿、潁州府の禁煙は永久に忘れ難き思出と相成り候、開城縣にては日本人の人氣頗る悪し河南縣にては窓より煉丸を見舞はれたる事有之候

當地より土匪の巢窟も云ふべき河南の西部を過ぎ湖北に漢口に出づるは何れ十月の初めと存候(八月廿二日)

河南省周家口にて 高橋生

安徽大縣より民船にて願水の上游沙水を溯江する事四日にて一昨十五日當地に安抵仕り候、世に時めく衰世觀も此の附近の項城縣にて呱々の聲を擧げこの濁水に産湯を用ひこの濁流に河童の眞似を爲したるイタツツ兒なるを想起し候

當地は河南省東部の巨鎮にて願水一帶の高橋を握り商務繁華の地に候、主なる輸出品は大豆、高粱、麥、麻、胡麻、等にして輸入品の主なる者は各種雜貨洋布等に

河南省鄭州縣にて 高橋生

候、此の地に本邦人經營の共益藥房なる藥鋪有之五十日振りにて同胞に會合、母國の事戰等の事承はり候、南軍の敗北の書院全燒等の事を聞きたる時は突然たるもの有之候(八月廿七日)

湖南省長沙にて 一宮生

長沙にて三日滞在中、暑苦しさ積勞一時に耐へて見物普旅舎に横はり殆ど出せず、最も見晴しき地を天心閣とす樓上納涼の客多し閑人の茶呑み場に好し此處より眼を轉すれば長沙一帯の山水一陣の中に入る、城壁の周圍四十里西を湘水廻り江を隔て、岳麓山あり、樹立の山あり、洞庭八景の一、李白の家跡あり長沙は山水明媚の地なり加ふるに飲料水甚だ好し、白鶴泉、南門外の水は長沙三泉の一つにて玲瓏玉の如く冷しビールに適す、市人の水汲みに行く者南門、西門附近は絡繰となり絶えず、曾國藩の廟は今烈士祠となり革命志士を祭る、内部の立派なる未だ曾て見ざる所、上海の愚園趣味を加味す、巡警は凡て青龍刀を斜に背負ふ甚だ奇なり、今バンドの大工事にて完成の上は甚だしく面目を新にせん鐵道は城の南方を廻り萍郷に通せり

(八月廿二日)

湘江のわたりにて 青眼生

皖南三旬の行宛り馬車馬に似て只汗を流しての陸行詩的のごころ候はず、嶺北戰塵の裡を馳突し琵琶行の主人には似たれど浮梁を去つて沅陽江頭に出て申候、江口船を守る人なく強悍無風流なる北方の軍隊反つて之を守り居りあたらず史蹟も殺風景の感を起さしめ候

月の望陽陽を去り曹孟徳が周郎に苦しめられし邊りに思を馳せつゝも夢寐の裡

江西省零都より 野村生

拜啓瑞金を出發致候は八月四日にて會昌には六日到着致候、瑞金縣知事は中央大學出身の事、又た會昌縣知事は北京法政大學出身の由に御座候、江西動亂に對して兩縣縣とも百名宛の兵士を出し候との事に御座候

時局に對する人民一般の感想は江西省の事故皆々南方に力を入れ候様に御座候又た物價を見るに米は一圓につき二斗二升一升は我が五合位が上等にて米の出來はへは可なり良き様に御座候

(八月廿九日)

雜報

●總統令一束

給、二等文虎章 王懷慶
任陸軍第六師長 馬繼增
任陸軍第六師步隊第十一旅長 張敬堯
●南京戰死將校の優恤 張勳の請ひにより陳仁せる閻肇鵬に對し陸軍中將の例により給恤す

授陸軍少將並に中將銜を加ふ (以上八月廿九日)

給、二等文虎章 胡萬泰
徐承揚 劉世揚
孫憲藩 鮑曾卿
李承元 李榮勳
任陸軍第一師第一旅長 顧琢堃
加陸軍中將 徐錫珪
任煙台鎮守使 顧錫珪
任無湖大通司令 顧錫珪
任陸軍第一師第一旅長 顧錫珪
加陸軍中將 顧錫珪

品質精撰

●醫療用藥品

●醫療用器械

●醫療用繃帶材料

●工業用藥品

●玻璃藥瓶各種

●諸大家賣藥各種

●美容化粧品各種

●廉價販賣

諸大醫御方處調劑處

濟生堂大藥房

電話二一五六

上海華西路路角

●孔子釋典舉行 去る三日は孔子釋典日に相當するを以て孔教會明輝發起となり上海城內聖廟に於て革命以來の小學校より參拜あり一昨年の華命以前の盛典なりし又北京に在りて湯化龍主宰となり國子監に於て盛大なる盛典を擧げ袁總統よりは特に梁士詒を派し嚴復、梁士詒、梁啓超等各演説をなせりと

●前田侯爵の寄滬 歐洲行の途に在る前田侯爵は去る三日入港の北野丸にて寄港されたり右に就き當地在留の加能越三州人士は盛なる歡迎宴を張り侯爵及一行の旅愁を慰めたり、猶ほ侯爵一行は三井藤瀨氏宅に滯留し市内各地を參觀され去る五日盛なる見送を受け渡歐の途に上られたり

●壯烈なる活動寫真會の開催 南極探險隊長白瀨謙氏は探險隊後援會の事後整理事業扶助の爲め今春以來該探險隊が萬死を冒して極地の光景を撮影せる活動寫真を携帶して鮮滿各地を巡遊中なりしが同氏は今回來滬せるを以て當地同胞は我帝國空前の壯舉にして學界及び國家の元氣振作に貢獻する事多大なりしを欽仰し若談會諸氏は去る四日洋濱俱樂部俱樂部にて白瀨氏の講演會を催ふし、又當地主なる人々は白瀨氏の舉を賛し發起者となり今明兩日四川路中國青年會にて白瀨氏の講話及び極地探險の活動寫真會を催ふす由り我等は白瀨氏の勞を多として前途を祝福すると共に該會の盛會なるべきを疑はず

●海關貨幣兌換率 上海稅關の發表せる本九月中の各國貨幣兌換率は左の如し
一海關兩 壹圓四十七仙 二ペピーニ 七 一元五十仙 一ルブル四四 三マール〇九 三フラン八一
一弗金 一海關兩三六
一磅 六海關兩六二

●日刊新支那愈發行 本誌前號に報道せる日刊新支那は愈去る一日北京に於て發行せられたり、流石は北京に於て有志者の筆に成れるだけ體裁

内容共に我意を得たり、發刊の辭にて同人諸君及該紙の抱負と實價を知るに足るべし殊に時事問題の報道は本紙の特長と云ふべく其他外電報及記事頗る豊富なり我等は該紙が順天時報と相俟ちて日支國交の梗子たり、將た完全なる報道機關として健全なる發達を遂げん事を祈りて已ます

●公私人消息

●上野眞正氏 過般來滬の東亞同文書院致頭なる同氏は過日大村に於ける書院假校舎開院に就き去る二日大村の近江丸にて歸東
●眞島次郎氏 東亞同文書院教授なる全氏は上野致頭と共に二日歸東
●白瀨謙氏 南極探險隊長なる同氏は去る一日神戶丸にて來滬
●平岡小太郎氏 歸國中なりし當地新利洋行主任なる同氏は去る三日入港の春日丸にて來滬
●池田海軍少佐 去る三日來滬四日夜潮

●宗方小太郎氏 來る十三日出帆の山城丸にて往復二ヶ月の豫程にて歸朝の筈
●シ、エス、ボンド氏 前きに支那工商部顧問たりし同氏は今回南京造船廠總辦と爲り去る二日大沽公司汽船新濟甯號にて來滬直ちに赴任したり
●渡邊爲城氏 去る一日大連より來滬
●香月梅外氏 去る六日出帆の春日丸にて歸朝
●オリバ、フロイド氏 駐北京米國駐屯隊附海軍中尉なる同氏は今回歸國の途去る三日天津より來着翌四日東洋汽船天洋丸にて出發したり
●リチア、デニド氏 支那鹽稅監督なる同氏は今回鹽產地視察の爲め去月二十九日北京出發し長蘆兩淮長江一帶を視察し歸路廣東に出で歸京すべしと
●ブルリス大佐 當地公共租界工部局警察部長を辭職し今回北京政府に招聘せられし同大佐は去る四日出帆北上したり
●角田宏顯氏 上流地方視察中なりし大連遼東新報記者なる全氏は去る四日回滬

●岡山源六氏 大阪朝日特派員として江西及南京地方へ出張中なりし同氏は去る六日回滬明日九日出帆の筑後丸にて歸東の由、
●末永節氏 日華國民會代表として久しく當地に滯在中なりし同氏は去る六日出帆の春日丸にて歸東したり
●前島次郎氏 當地武林洋行主任なる同氏は去る六日の春日丸にて歸東
●白岩龍平氏 日清汽船會社重役なる同氏は來十四日出帆の阿波丸にて歸東の筈
●胡瑛氏 去る六日出帆の春日丸にて日本へ

●郵船 虹山在庫品 (九月四日調査統計) (△印號)
品名 數量 前號比較
印度綿絲 五、七七五 △四三九
綿絲大俵 二〇、一一〇 一五三
綿絲小俵 四、七五八 △五六
金巾(單包) 三、三三三 一、八二二
織守軸木 二、一八九 四
白糖 三、三〇七八 △九、五四五
麥粉 三、八三九 △八五二
昆布 一一、九六二 △三、七三二
切昆布 五、七三一 一、八一〇
鹽魚 三、八五五 二二六
フランネル 二、六五 八〇
茶 〇、五八六 △五八六
雜貨(箱) 九、六三七 △三七八
雜貨(包) 七、三六三 △四三七
九江紙 六、六一九 △三七九
紙 五、六三三 △四四九
洋紙 四、九二五 △一四四
舊鐵 二、九〇 二八二
銅 二、九〇八 △二、〇五五
片版 一、七三九 △一〇〇
桶板 四、三三二 △七〇〇
札板 二、六四五 △二、六四五

▲出 港

英國	四一	七六、九六三
日本	二三	四三、三五五
支那	二一	二二、〇四六
獨逸	一一	二七、八〇九
露國	一一	一九、六二二
和蘭	一一	二、八八八
埃國	一一	八、五九八
丁抹	一一	二、八八八
那威	一一	二、九六二
佛國	一一	二、九六二
米國	一一	一、八六、五八三
合計	一九三	三三、五、四一五

▲入 港

英國	三八	七四、二四〇
日本	二三	四七、六〇〇
支那	一九	一八、三二〇
獨逸	七	二二、八一九
露國	一	一、九二二
米國	二	六五、〇五
佛國	二	六五、〇五
丁抹	二	六五、〇五
和蘭	二	七、四三六
那威	二	七、四三六
埃國	二	七、四三六
合計	九二	二七、八、八三三

●上海港 出入統計

八月二十九日より本月四日に至る一週間 中上海港に出入せし内外汽船の總計は百九十三隻、三十六萬五千四百七十五噸にて内入港船舶は九十二隻、十七萬八千八百三十二噸、出港船舶は百〇一隻、十八萬六千五百八十三噸に上る、其の詳細は左の如し

●上海港輸出統計

八月廿九日より本月四日に至る一週間に於ける、上海港と、日本々土、朝鮮、台灣、大連間貿易の形勢は左の如し

英國	四一	七六、九六三
日本	二三	四三、三五五
支那	二一	二二、〇四六
獨逸	一一	二七、八〇九
露國	一一	一九、六二二
和蘭	一一	二、八八八
埃國	一一	八、五九八
丁抹	一一	二、八八八
那威	一一	二、九六二
佛國	一一	二、九六二
米國	一一	一、八六、五八三
合計	一九三	三三、五、四一五

●仲次業

京都鈴木製 度量衡 各種

ペンキ塗 各種

三頭洋行 一切

上海虹口乍浦路あづま前

●お國自慢

支那名産に 應御注文に

●名物屋

上海虹口乍浦路あづま前

●珍菓

上海虹口乍浦路あづま前

輸出の部

(一)日本本土への輸出

鶏卵	10,000個	60反
穀子	5,500担	3元担
棉花	1,000担	3元担
芋藤織緯	5,500担	3元担
蠶繭(生)	9,000担	4元担
蠶繭(熟)	5,500担	3元担
獸油	1,000担	100反
菜種(生)	7,500担	100反
キャベージ粕	1,500担	3元担
蠶繭	1,000担	3元担
絹布縮類	2,000担	3元担
絹布縮類	2,000担	3元担
型付天竺木棉	2,000担	3元担
石膏	1,000担	3元担
石膏	1,000担	3元担
野實種	1,000担	3元担
紙	1,000担	3元担
カーベット	1,000担	3元担
野實種	1,000担	3元担
油	1,000担	3元担
菌フオナガス	1,000担	3元担
オキシゼン	1,000担	3元担
シリダ	1,000担	3元担
綿織子	1,000担	3元担
鐵骨	1,000担	3元担
白金巾	1,000担	3元担
綿木棉(染)	1,000担	3元担
綿布	1,000担	3元担
縮入毛布	1,000担	3元担
蠶繭	1,000担	3元担
型付更紗	1,000担	3元担
大豆	1,000担	3元担
棉花	1,000担	3元担
皮蛋	1,000担	3元担

(四)大連への輸出

米	10,000担	100担
絹布縮類	2,000担	3元担
紙巻煙草	1,000担	3元担
布圍地	1,000担	3元担
棉花	1,000担	3元担
蓮根	1,000担	3元担
床板	1,000担	3元担

輸入の部

石炭	6,000噸	6元噸
軟木	2,000噸	6元噸
鐵道枕木	4,000噸	6元噸

金融市況

自八月廿九日
至九月四日
銀塊及び爲替
市場共極めて單調子の内に配配稍上向き
なりしが市況依然活氣を欠けり

各種商況

▲一般商況 週中商況漸次回復の徴を呈し殊に綿布類、綿絲類の在荷は捌け新注文あるに至れるは悦ぶべき現象にして、北支那各方面よりの注文續々として來り、荷物も亦た速かに引取り居れるを見たり、揚子江各地に就いて云へば、南京陥落以前より既に九江、鎮江等の如き地方さへも商談を進め來り居れり、さればりの後商談の進捗し居るもの少なからざるは當然なり、本年第三期の貿易は勿論例年に比し頗る少額なりしも昨今に至り、たとひ少額なりとも各方面よりの注文問合せ等現今の如く時局なほ頗る不定なるのみならず、金融界の狀況亦た頗る不利なるの際に於て悦ぶべき狀態と云ふべし、米國に於て棉花の暴騰ありし爲め當地の綿布、棉絲界に影響したるは勿論なり、棉布類の競賣は六週間休みたる上最早再開せられ、その結果も亦た負好なり、四川に於ける形勢なほ不定の爲め同地との取引は行はれざりしも、昨今の市況に基き四川の商人も取引を始め出すは近きにあるべしと考へらる、併しなから一部商人の説を耳にするに南京陥落せるも商況が十分に恢復すべしと見るべからず、南京と存外短時日に落着せるも各方面に影響し居る事とて、内地との聯絡も急に取られ得ず、一般には不安の念を去る能はず、政局の不定と流賊の出没等は未だ眞の平和を得たりとの感を興へず、これなほ十分に景氣を恢復し能はざる所以なりと

▲外國棉 米國市況強氣の爲め倍騰貴の狀態に在り、リゾアール市況は九月四日の來電によれば、五十六ポイントの騰貴にして、現物は七片七〇を唱へ十二月物來年一月物六片五九とあり、ベンガル物一フアージン上りて五片八分の三となり、埃及物亦た三十五ポイント上りて十片を唱ふ、紐育市況は現物五十五ポイント上りて十三弗となり十月物十三弗十八仙十二月物十三弗十六仙を唱ふ米國の棉作は九月の狀況によれば六十八、二にして其の全作高一千三百七十萬俵を超過せざるべしと稱す、テキサスにては少量の降雨ありたるも尙ほ雨量頗る不足にして棉作の状態に不安の念を有するものありと云ふ、マンチエスター市況は棉花が急に暴騰せる爲め恐慌を來たし、相場立たず、何れ織物業者によりて高價の値段を公表せらるべしと云ふ



東亞公司書藥局

上海河南路(工部局北隣) (電話一七三四)

賣販造製藥賣種其他其水日月藥目

賣販手一等飴田浸活胃湯將中丹仁

藥賣各本日及び品業用業工用療醫

品粧化他の其粉齒齒油香水香鹼石

賣販出版籍書種各の向那支

賣販次取籍書那支及び本日

器樂琴風及び具動運具房文

類品用店商種及び社會校學各

▲支那棉 外國棉騰貴の影響を受け現存少量の殘物に對しても高價を唱ふるに至れり、太倉物二十二兩五匁、四チヨツブ物二十一兩六匁、北市種十一兩、南市種十兩三十仙にして、週中日本向輸出高一千二百七十六担各地向總輸出高五千三百七十六担ありたり

▲日本綿絲 週中取引高一千四百俵にして直段は多少高となれり、即ち十六手物百四兩乃至百四十四兩七分、二十手物百八兩五匁乃至百十八兩八匁、最近入電三品相場は前週より高値にして當百四十圓九十錢、中百四十圓五十錢、先四十圓九十錢なり

▲印度綿絲 週中久々にて活氣を呈したり、但し直段はあまり高値を満足したる取引にはあらず、孟買市況は棉花騰貴の爲め、アルピー乃至五ルピー方高値を唱ふ、上海市況にても一兩乃至二兩高を見せたり、週中取引高三千三百三十三俵にして天津、青島、牛莊に賣れたり、此の外約七千俵アルピー相場にて商談出來、グリーンブス紡績物を多く買ひたりこの事なり、前記週中取引中六手物十手物は天津、牛莊、青島、十二手物は江西及び青島に賣れ、その取引は六手物五十俵八十一兩十手物一千八百九十三俵八十七兩乃至九十八兩十二手物一千三百七十俵九十五兩乃至九十八兩五匁週中入荷デアツナア號にて四千二百六十八俵及び孟買棉一千六百九十九俵ありたり

▲支那綿絲 週中相當の賣行にして九千七百俵の取引ありたり、即ち

サイシヤ、ポット 俵 九、二兩
十六手物 三、五匁 六、六匁
鐵箱 一、五匁 一、〇七、〇〇
マンダリン 一、〇〇〇 一、〇〇、〇〇

紅圓龍 一、〇〇〇 一、〇〇、〇〇
紅龍 五、〇〇 一〇、〇〇
雲鶴 一、〇〇 一〇、〇〇
雙象 六、〇〇 一〇、〇〇
雙虎 一、〇〇 一〇、〇〇
水月 一、〇〇 一〇、〇〇

▲倫敦銅相場 近日入電益々昂騰其の源因は歐米一般の景氣恢復野銅の減少並に例年騰貴の季節に際會する等により今本月三日より五日に至る相場は左の如し

▲石炭 南京陥落せるも當地の炭況は依然沈靜を保ち別に前週と變りなく尙ほ船腹は其後下落し若松上海開元二十仙見當を稱へ居れり

▲砂糖 本週中左の手合ありたり
橫濱精糖 七千俵、十、十一月積
沖糖 五兩五匁三分
同 五兩五匁七分
同 五兩六匁九分
爪哇糖更目
十號 五千俵庫渡 五兩〇五分
十二號 一萬俵 五兩一匁五分
十三號 八千俵 五兩二匁
馬尼刺赤糖 二號 四千俵(小俵) 四兩八匁
三號 三萬四千俵(同) 四兩五匁

▲種粕 現物又は期近物 一兩五匁八分

▲大豆 浦口大豆新物在荷四千俵、二兩八匁唱

▲小麥 二兩四匁五分、南京陥落したりと雖も秩序未だ恢復せざる爲の産地よりの着荷は依然少なし而かも各製粉工場は手付原料薄の爲め何れも買入を急ぎ居れるが故に市況益々昇騰しつゝあり

▲棉質板粕 阜魁の爲め棉質減收の見込にて板粕從て相場高見込、先物二弗八仙唱へ、但し賣物なし

▲海産物 ▲昆布 南京陥落したれども四川未だ平定せず、在荷多と新見布出廻りとの爲め市況不振、相場新上三兩壹匁五分、舊三兩次二兩八匁尙ほ下押し模様二番糖、市況不振なれども相場依然持平尙十五兩、次十四兩、在荷多からす▲貝柱 荷捌げ捗々しからす九小五十五兩、大五十二兩三角四十七兩を持合ふ▲海參 三十粒百兩、四十五粒八十七兩、六十粒六十六兩▲鹽魚 鹽鱈在荷僅少にて望手多く相場四兩九匁、鹽鱈僅百斤貳兩の安値

▲時計 時計商は品物過多に困り居りし矢前なりしかば今回の事變は當地にては方面を換へて天津又は滿州地方に荷

廣光堂大藥房
文路三三〇番
上海日興路〇一五〇
電話四〇七五番



▲海産物 ▲昆布 南京陥落したれども四川未だ平定せず、在荷多と新見布出廻りとの爲め市況不振、相場新上三兩壹匁五分、舊三兩次二兩八匁尙ほ下押し模様二番糖、市況不振なれども相場依然持平尙十五兩、次十四兩、在荷多からす▲貝柱 荷捌げ捗々しからす九小五十五兩、大五十二兩三角四十七兩を持合ふ▲海參 三十粒百兩、四十五粒八十七兩、六十粒六十六兩▲鹽魚 鹽鱈在荷僅少にて望手多く相場四兩九匁、鹽鱈僅百斤貳兩の安値

捌を運動せるものあり殆んど火滅せる有様なりし爲め製造地に於ても大に之に困却したり然れど事變割合に短時日を以て終了したる爲め近頃に至て弗々商賣開始せられたり而して相場は今の處別に變化なきも一時商内停止し此間に安くなる賣飛ばすもの出で或は少しに押さざるやも知れず要するに上海附近の商内は平常と殆んど同様ありと見るべく此向きならば今後は恐らく順調に進むならん推せらる

▲洋傘 洋傘は時期已に經過せる爲めに事變の打撃殆んどなしと云ふも可なり尤も一時停止中浙江省方面への荷動弗々之れありたるも這是該地方に洋傘の行渡らざる補給の爲めに外ならず

▲不帽 普通なれば八月二十日以後は冬帽の商内ある筈なれども今回の事變の爲め此八月中には何等の取引を見ざりき、然れど八月初に伊太利より約二萬打(本年に至り伊太利輸入品を合算せば四萬打ならん)程輸入せる爲め今後の上海冬帽界は如何も悲愴を経るべし即ち仕入れ何れも差控への状態にあり隨て相場も漸次下向し打五兩見當を唱へ或商人は此伊太利品の此値すら損を招くべしと稱し居るも昨今初商内弗々開始され居れり尙日本品にして是迄輸入せられたるものは皆無にして單に見本位に過ぎずして當地に於ては伊太利品の爲め到底引合ふ見込みなしと云ふものあり要するに今日の状態を以て見れば本年の冬帽界は損なしに通せば好成绩なりと云はざるべからざるに似たり

▲上は中折帽に就て云へるものなるが其他打帽等の種類は支那人自營のもの續出し輸出品殆んど跡を絶つもの有様なりと

▲齒磨粉 事變片付くと共に他品に比し必需品なれば殊に賣行き好し

製造元 帝國礦泉株式會社
輸入元 永井分會社
電話 一五八四

三平野水
サイヤタイ
ジンジャイ
オレイン

廣告料
紙本掲載廣告の料金は行數の多少掲載期間の長短に依り特に御相談可致候間御用の方は端書又は電話にて御一報被下度候
文路三七七日本堂轉交
週報上海
發行所 春申社
(電話三〇八三)

編輯兼發行人 上海文路三七七 電話二七三三 佐原篤介
印刷 上海文路二七三 電話二七三三 佐原篤介
發行所 上海文路二七三 電話二七三三 春申社
電話三〇八三

本紙定價(前金)
一部 銀十仙 金十
一月(四) 銀四十仙 那支 同四十
半年(六) 銀貳百三十仙 同二圓二十錢
一年(十二) 銀四 同四
(共稅郵) 同四
振替口座 福岡四七〇五番
支那上海 春申社 佐原篤介
大正二年九月八日

南京發前セ急行 前二五五普通 後三二夜行 前二五五普通 後三二夜行

